

# 神戸市立 霞ヶ丘小学校学校 学校評価報告書

校園長名

芝田 悦司

記入者名

藤下 美穂

基本政策	教育目標	重点目標 (努力目標)	具体的な取組	取組状況・成果・課題	4点満点 評価	改善策	学校関係者評価でいただいた意見等
心豊かに たくましく生きる 神戸の子供を育む	自ら学び、 たくましく、 共に生きる子供 の育成	自分の考えが伝 えられる子	学習ルールの徹底	・学習ルール「あいうえお」の歌を毎週水曜日の朝の放送で流す。 ・霞学習規律スタンダードをもとに、学年に応じてきめ細かに指導している。	3.6	・学習規律は、低学年からの積み重ねがあるので、継続して指導していく。また、教師も意識が薄れ無いよう、研修を通して共通理解を図っていく。	学習ルールはしっかりとみについているようだ。高学年もよい状態である。
			基礎学力の充実	・導入「目標をもつ」、展開「学習活動をする」、終末「学習をまとめる。振り返る」を基本形として授業を組み立てる。 ・「読む・考える・書く・伝える」活動を取り入れ、興味をもって学習に取り組めるようにする。	3.7	・全国学力学習状況調査において、全般的に「良好」ではあるが、更に書く力、知識を活用する力をつけていくよう取り組む。 ・一人学習、ペア学習、班学習を効果的に取り入れ、自分の考えを工夫して伝えたり、考えを広げたりできるようにする。	職員研修が充実しているようで安心した。若い教員もしっかり育ってきている。
			読書活動の推進	・学校司書と連携し、学習単元に応じて関連図書を活用する。 ・低学年には朝の読み聞かせ、全学年におはなしの会を図書ボランティアにより実施。	3.7	・新しい教科書の内容に応じて、どの単元で図書館の関連図書を活用できるのか、学校司書と共に年間計画を立てておく。	
	最後までがんばる 子		体幹体操	・校歌に合わせた学校独自の体幹体操を全校で取り組んでいる。集会や学年行事等で実施回数が少なかった。	3	・月中行事の木曜日に、「集会・体幹体操」を明記し、学年行事が入っていても体幹体操の回数を確保できるようにする。	良い取り組みが行われている。これからも継続してもらいたい。
			右側通行の徹底	・廊下の込み合う所については、コーンで仕切りを作り、右側が分かるようにしている。 ・西校舎と中校舎の1階にセンターラインを引くことで効果が上がった。	3	・右側通行は、意識できる児童が増えてきているが、「歩く」ということについては、継続して指導していく必要がある。	
			5分前行動	・運動場で遊べる学年を交代制にしているため、15分休みを毎回取り入れている。5分前になると教室に入ることが定着している。	3.6	・休み時間、運動場で教師の目があることで、5分前行動ができている。これからも教師による休み時間の見守りは継続していく。	良い伝統を引き継いでいってほしい。

	誰とでも仲よくできる子	すすんであいさつをする	・あいさつ当番を全校生で割振って1～6年生まで校門に立って行った。「あいさつの花を咲かせよう」運動など教師からもキャンペーンを行った。	3.3	・年間を通して、朝会指導では、あいさつの具体的な視点を示して指導している。子供だけでなく大人も気持ちの良いあいさつができるよう、意識を高めていく。	子供たちだけでなく先生方もあいさつができていて気持ちがよい。
		異学年交流	・なかよし遠足、集会、大縄集会、学習交流等、様々な活動でペア交流を取り入れている。親しみとともに、学習効果も高まっている。	4	・ペアでの本の読み聞かせ、校歌、九九学習、自問清掃、長縄、学習発表会など引き続き内容を工夫して交流を深める。 ・思いやりの心を育む。	ペア交流は、子供たちの思いやりの心が育つので、これからも大切にしてほしい。
		委員会活動の充実	・高学年が中心となって主体的に考え、全校生が楽しめるように活動している。	3.8	・集会やお昼の放送を通して、委員会活動の紹介やお知らせを行っていく。	高学年が中心となって活動を行っているところがよい。
安心・安全で楽しい学校を築き、地域と共に子供を支える	主体的に伝え合い学び合う授業作り	全学級の授業公開(5月)	・全学級の授業を公開し、児童理解を深めた。授業評価シートも活用し、授業を見る目を養っている。	3.6	・今後も授業評価シートを活用し、力のつく授業づくりに取り組んでいく。 ・今年度は「学び合い」をテーマに職員研修を行ってきた成果が見られる。学年に応じて育ちが見えているため、今後の定着に向けて取り組んでいきたい。	学校が一丸となって子供の育ちを後押ししているようである。
		OJT研修の推進	・小グループを編成して月1回のOJT研修を定期的に行い、若手教員の指導力の向上を図っている。	3.8	・授業改善のみならず、児童理解や教材研究についても、世代を超えてコミュニケーションを図っていく。	若い教員が着実に育ってきているところが非常に良い。
		学年・なかよし・専科の8グループ別研修	・「霞スタンダード」「霞アクティブプラン」に基づいてグループごとに研修を重ね、全体授業を4回行う。	3.5	・「主体的・対話的で深い学び」を目指して自ら伝え合い学び合う授業づくりを研究してきたが、学習のねらいも達成できるよう研修を重ねていく。	これからも職員研修を充実させてほしい。
	いじめ防止基本方針に基づくいじめ防止対策に関する取組(いじめ問題対策委員会等)		・毎月、校内生徒指導委員会を開きいじめにつながる事案については早期に対応できるよう情報を共有している。大きな事案は、随時対策委員会を開いて解決に当たった。	3.5	・児童理解を深める、児童一人一人の自尊感情を高める、認め合い支え合う温かい学級づくりなど、未然防止に努める。 ・早期発見、丁寧な聞き取り、組織的な対応ができるよう、情報の共有を図る。	
		超過勤務時間の削減	・退勤時刻を意識して、一人一人が計画的に仕事を進めている。 ・KIIFによる校内連絡が定着。	2.8	・毎週月曜日は「〇〇部会」、水曜日は「研修」、木曜日は「学打ち」と決めておき、計画的に仕事を進めるようにする。 ・校内連絡と夕礼を活用し、職員会の連絡事項を減らす。	これからもどんどん進めていってもらいたい。

ホームページの更新頻度の向上	・月に1～2回、各学年の情報担当を中心に学年の様子を掲載した。	3 ・積極的に新しい情報を発信できるよう、引き続き各学年月1～2回は、授業や活動の様子などを掲載する。	
----------------	---------------------------------	--	--